

①: 社会実装テーマ（自家用車依存からの脱却による環境負荷削減と地域再生）

目標スペック

■車両

- 1: 地域活性化に資する、交流機能、情報提供機能
- 2: フルフラット小型EVバス
- 3: 建築家による創造的デザイン

SDG'sへの貢献: 3、7、9、11

■ハブ空間システム

- 1: マルチモーダルなモビリティのトランジット空間
- 3: 交通だけではなく、コミュニティ機能、マーケット機能を持つ
- 2: EVの充電ポイントとなり都市空間のインフラシステムを担う

ベンチマーク

■車両

- ・ 郊外モビリティとして細い道でも走れる小型バスが必要。
- ・ フルフラット小型EVバスは実現していない。



■ハブ空間システム

- ・ 現状のバス停はほかのモビリティ(自転車、シェアカー、レンタカーetc.)と十分に接続していない。
- ・ 交通以外の機能を想定していない。



2030年の都市ビジョンからのバックキャストによるバス車両とハブ空間(バス停)のリデザイン

2030年の都市ビジョンの探究

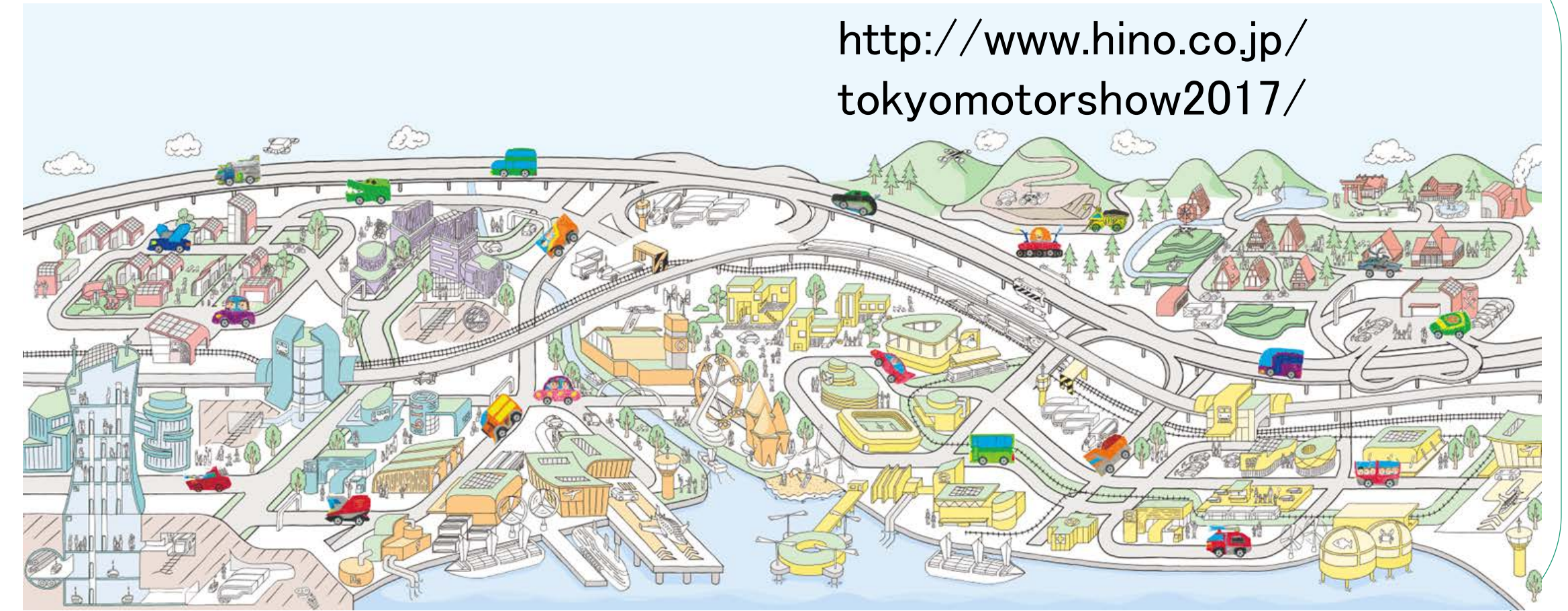
2030年の都市

ソーシャルキャピタルの向上／自立的な地域コミュニティがもたらす市民主体の公共空間のデザイン／分散型都市システム／物や人の流れのローカライズ／サステナブルでエシカルなライフスタイルの受容

2030年の都市モビリティ

街路は交通のためだけの空間ではなく多様なアクティビティを内包する生活の場に／マルチモーダルモビリティのネットワーク(情報空間と現実空間の両方)の形成／EVの普及／歩きやすく自転車にのりやすい街路

参考: 日野自動車 未来マップ
<http://www.hino.co.jp/tokynomotorshow2017/>



地域の居場所となる車両〈Mobile Share Living〉

■概要

- ・ ハブ空間システムというインフラが可能にするフルフラット床面小型EVバスを日野自動車と開発
- ・ 建築家が参画予定。創造的なデザインに。



参考: 日野ポンチョEV
[/news.release/17-024.html](http://news.release/17-024.html)



参考: 建築家妹島和世によるデザインの西武鉄道車両
https://www.seiburailway.jp/news/news-release/2017/20170613_shingatatokkyuu_2.pdf

■取り組み内容・成果

- ・ デザインコンセプトの明確化、模型の製作



■課題・対策

- ・ 新型バス車両・モビリティと連動した都市空間ビジョンの具体化
- ・ 新型バス車両のデザインの具体化とモックアップの製作

人・モノ・情報の結節点となる〈ハブ空間システム〉

■概要

- ・ バス、徒歩、自転車、シェアカーなどマルチモーダルなモビリティのトランジット空間でありEVの充電ポイントを兼ねる
- ・ 交通だけではなく、情報共有機能、コミュニティ機能、マーケット機能etc. を持ち、インバウンドに人や情報が集まるハブ機能を持つ

■取り組み内容・成果

- ・ ハブ空間のプロトタイプとして〈Mini Station〉をデザイン、製作。
- ・ 実証実験として、横浜国大内「国大北」バス停脇に設置、イベント開催など試用を開始。
- ・ 動く建築〈Mobitecture〉を作成。試用開始。



■課題・対策

- ・ 新型バス車両のデザインと連動した充電設備の検討
- ・ 〈空間システム〉×〈運営システム〉(利用者や地域コミュニティを含む多様な主体が参加できる仕組み)の構築

	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	H34年度～
車両	デザインの具体化 (TRL2)	モックアップ製作 (TRL3)	実車両デザインの展開 (TRL4)	コンセプトモデル実車両製作 (TRL5)	実車両の実装実験 (TRL6)
ハブ空間	大学内での実装実験 (TRL4)	運営システムの構築 (TRL5)	大学外での実装実験 (TRL6)	大学外での実運用 (TRL7)	実運用の結果を踏まえた改良 (TRL8)